

令和5年度 学校評価表（全日制課程）

県立赤穂高等学校（全日制）

<p><令和5年度の重点目標> 1 学力向上と個性や創造の伸長 2 豊かな人間性と社会性の育成 3 地域に信頼される学校づくり</p>	<p>・熱心な取り組みがなされていて、今後も継続していくことを希望する。 ・学力向上には引き続き力を注ぎ、国公立や有名私立大学と呼ばれている大学への進学率を上げて欲しい。 ・地域の信頼を得るのは難しいと思うが、最低限苦情が出ないような指導は継続して欲しい。</p>
--	--

領域	評価の観点	評価項目、並びに、実践目標	R5 成果と課題	R5 肯定比率 (%)	R4 肯定比率 (%)	R5保護者の肯定率 (%)	R5 改善の方策	R5 学校関係者評価
学校運営	地域に信頼される学校づくり	魅力ある、地域に信頼される開かれた学校づくりの推進 ①学校行事や生徒情報を家庭や地域社会に月に1回以上発信。 ②HPの更新と内容の充実。 ③生徒会活動、HRや部活動等の教育活動を通して、自発的な態度の育成。 ④地域行事の積極的参加と地域の核となる人材の育成。	・ホームページ更新や「赤高だより」の発行等、定期的に情報を発信した。新たに、教育活動の報告について、HPに掲載したり、新聞やテレビ局等のマスメディアへ連絡を行い、取材をしていただいたりした。部活動の情報発信ができていないのが課題。 ・学校行事については、4年ぶりに制限なしで実施できた。文化祭は2日間学校開催とし、多数の保護者が来校し盛り上がりを見せた。 ・始業式、終業式は、全校生が一同に集い実施することができた。吹奏楽部の演奏による校歌・生徒歌を復活させた。 ・赤穂義士祭では、恒例の義士行列や奉賛武道大会への参加に加え、「大名行列」に本校生28名の有志が出演。また、吹奏楽部がオープニングセレモニーで演奏した。 ・コロナの制限がなくなり、地域貢献活動にも積極的に取り組みたい。	70.3	94.7	59.6	・ブログの更新の種類等を増やす。 ・部活動情報の定期的な発信には、無理があるので「1年の歩み」として、すべての部活動が年1回の更新を行えるようにする。 ・ボランティア活動を積極的に推進し、地域との連携を深める。	・赤穂市における地域貢献を積極的に行って欲しい。 ・HP、ブログは実新されているが、頻度はもっと上げられるのではと思う。情報発信は必要と考える。
	生徒指導	生徒指導の方針と指導体制の推進 ①登校指導において遅刻防止と挨拶励行。 ②部の基本方針の下、日常生活指導等、全職員で統一した指導の徹底。 ③関係機関（警察、青少年育成センター等）との連携と、問題行動の未然防止と早期対応。 ④校内の教育相談体制の整備。	・時差登校の実施により校門の混雑が緩和されているが、駆け込み登校する生徒も散見された。挨拶も自発的におこなう生徒が多いが、より元気の良い挨拶を心がけさせたい。 ・昨年度から本格的に取り組み始めた校則の見直しを継続して取り組んでいる。今後も更なる検討が求められる。 ・文化祭が4年ぶりにコロナが5類に移行されたことを受け全面実施できた。また文化祭の改編を行い、好評であった。	70.3	94.9	59.2	・学年時差登校は保護者の理解と協力のもと継続して実施していきたい。 ・生徒支援部会を基軸に共通理解と周知、丁寧な説明を教職員や生徒・保護者に対しておこなっていく。 ・さまざまな行事を通じて生徒と生徒、生徒と教職員の相互理解を深め、自信と信頼を醸成し、生き生きとした学校生活が送れるように努める。 ・部活動の意義や文武両道の大切さを伝え、加入率や継続率が上がるような取り組みをおこなう。	・これまでの取り組みを継続して欲しい。 ・交通立番のとき、こちらからの挨拶にはちゃんと元気よく返してくれた。コミュニケーションの第一歩は挨拶から始まると思うので、自発的に挨拶できる環境を提供して欲しい。
	進路指導 キャリア教育	職業観・勤労観の育成と進路意識の向上 ①進路意識やキャリア意識の向上（講演会、座談会、体験学習の内容の充実と進路通信、各種情報誌、キャリアノートを利・活用）。 ②家庭学習の定着と自己管理能力の向上（「未来手帳（生徒手帳）」の活用方法の研究）。	昨年度20名を切っていた共通テスト受験者数が、学年の指導により38名に増加し、受験した生徒は共通テストに向けた学習にも積極的に取り組んだ。 本年度は諸事情により2年生対象の大学出張講義を実施しなかった。 主な進路行事として、1年生対象の「生き方を考える」座談会、2・3年生対象の進路ガイダンス、学年ごとの進路講演会があり、3年生では就職説明会・進学説明会・面接指導説明会などを実施した。 本校の進路指導の課題は、各学年・クラスの取り組みと、進路行事などが3年間の指導の流れとして上手く融合していないため、生徒にとってばらばらの取り組みに受け取られているのではないだろうか。3年間を見通した進路指導・行事となるよう見直しをしないといけない時期を迎えていると感じる。	54.1	82.1	58.3	・講演会・座談会等と普段の指導との関連を深めて生徒にとってより向上を図れる内容構成となるように研究する。 ・生徒が進路目標を明確にし、その実現に向けた計画的な取り組みができるように学年と教科、進路指導部が協働するよう心掛ける。	・高校卒業後も視野に入れた指導を行って欲しい。 ・生徒のやる気を引き出せるような講演会や座談会を是非取り入れて欲しい。
	教職員の資質向上	指導力の向上 ①各部・委員会の研修会の実施（年間1回以上）。 ②授業力の向上（公開授業等の研修）。 ③研究授業の実施（全教科）。	校長主導で講師として星加 ルリコ氏を招き、8月21日（月）と12月25日（月）赤穂高校が目指すべき生徒の姿についての職員研修会をワールドカフェ形式で実施。最終的には、生徒の主体性を育むためには総合的な探究の時間を用いて展開していくことになった。 公開授業週間は6月と11月にそれぞれ2週間実施。研究授業を行った。 10月に令和5年度赤穂市中高教科研究会（国語科）兼 ひょうご学力向上研究事業グループ会議を実施。 研修会では、教師間で日頃時間をとって話せない内容を話し、分析・展開することができた。 公開週間では、他の教師の良いところを取り入れたり、教科横断の案のきっかけを作ることにつながった。	48.6	69.2	57.8	昨年度と同様、郊外研修の報告、公開授業週間以外での授業見学、探究の見学等の実施をする。 外部講師を招いて生徒・教師の成長につながる研修会をもつ。	・公開授業を引き続き行って欲しい。 ・熱心に指導いただいている印象がある。

防災・危機管理体制の整備	<p>教員の防災・安全教育に係る指導力向上と、地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進</p> <p>①危機管理マニュアルの適宜改定（行政や地域との連携）</p> <p>②防災避難訓練（地震・津波・火災の想定）について、行政、地域、関係機関との情報交換と連携体制の構築。</p> <p>③交通安全に関し、社会の一員として自覚ある行動と事故防止。</p>	<p>・年2回防災避難訓練を実施。うち1回は西播磨県民局の調整協力をうけ地域防災士の会と連携し防災講座をあわせて実施した。</p> <p>・さまざまな災害を想定した防災避難訓練の実施。</p> <p>・教職員の危機管理能力を高める。</p>	64.9	71.8	-	<p>・赤穂市消防本部と連携を密にし、防災訓練の時期や内容を適切に検討する。</p> <p>・地域防災士との連携をとり、防災訓練の内容をより充実させ生徒ならびに教職員の防災意識のさらなる向上を図る。</p> <p>・実際におこりうる災害に対応するため防災対応マニュアルの見直しを行い、災害発生時の教職員配備態勢の確認整備を行う。</p>	<p>・地震に対する指導「自分の生命は自分で守る」指導の徹底を進めて欲しい。</p> <p>・海が近いので、いざという時の危機感を持って対策を講じて欲しい。</p>
いじめ防止早期発見早期対応	<p>いじめのない学校づくり</p> <p>①いじめアンケートを実施（学期に1回）、早期発見・早期解決の体制づくり。</p> <p>②教育相談等に関して、全職員の連携と生徒の内面的理解。それに基づき生徒指導の推進。</p> <p>③校内組織体制（いじめ対応チーム）の構築。</p>	<p>・学期に1回、いじめアンケートを実施し、早期発見早期対応、未然防止に努めた。</p> <p>・日々の生徒観察をもとに様々な立場での声かけを実践するとともに、その指導の情報共有に取り組んだ。また、聞き取り、寄り添いを基本に家庭との連携を密にする取り組みも実践できた。</p> <p>・支援が必要な生徒も複数在籍しており、学年や保健教育相談担当との連携を密にし、未然防止に取り組む必要がある。</p> <p>・週1回、保健教育相談担当者会を開き、クラスの状況や気になる生徒についての情報を共有している。今後、生徒支援部全体で対応できるよう取り組むことが課題である。</p>	64.9	97.4	-	<p>・日々の生徒観察、個人面談、いじめアンケートを継続して実施し、早期発見早期対応、未然防止に努める。</p> <p>・保護者懇談会等を通じて、いじめに対する基本方針の理解を呼びかけ、学校と家庭が協力して生徒をサポートできるようにする。</p> <p>・学年や保健相談担当との連携を密にし、支援の必要な生徒情報を共有し、未然防止に努める。</p> <p>・職員研修会等を通じて、いじめや生徒理解に対する教職員のスキルアップに努める。</p>	<p>・教師と生徒の交流を深め一人ひとりを理解し悩みに対応した指導をお願いしたい。</p> <p>・方が一でもあつてほしくない。情報を聞き漏らすことのないよう取り組んで欲しい。</p>
自ら学び自ら考える力の育成	<p>探究活動の実践と特色類型の充実</p> <p>①全教科において、主体的、対話的で深い学びの手法を取り入れ、体験的な学習または問題解決的な学習についての授業展開。</p> <p>②学力向上を目的とした指導の推進（「未来手帳」の活用）。</p> <p>③総合科学探究類型について、体験活動の充実とその発展。</p>	<p>①学力向上グループ発表会の国語の授業研究で講師の長瀬先生より「人間味のある落ち着いた授業こそ大切」という言葉をいただいた。</p> <p>教科によるが、「振り返り」シートを用いて、生徒の自己評価を生かして指導と評価の一体化も行っている。</p> <p>②クラスによっては、的な双方向のやり取りを行っているクラスもある。</p> <p>集会や講演会にも活用させていきたい。</p> <p>③・医療に関わるナノテクノロジー（主に薬剤に関する）</p> <p>・赤穂の環境の歴史・わかりやすいプレゼンテーション ー研究成果を上手に伝えるために（データサイエンス初歩）</p> <p>・「水環境中における元素の移行挙動」</p> <p>・牡蠣の養殖と環境、水産資源について 5つの外部講師による講義と、サイエンス寺子屋参加、理化学研究所「富岳」・甲南大学ポートアイランドキャンパス研修、赤穂化成 企業見学・研修、西はりま天文台研修、アース製薬 見学・研修、数学・理科甲子園、かがく教室in 赤高、赤穂シオジオの動画撮影を実施した。</p>	48.6	69.2	-	<p>①各教科で、生徒が喜びとやる気を感じながら学び考える授業を探究する。期間によらず研究授業・公開授業を実施し、生徒・教師が振り返りを取り入れて双方向の授業を実践する。</p> <p>②未来手帳、タブレットの長所・短所を見極めながら日々の生活を振り返り生徒の意識と学力向上へつなげる。</p> <p>③本年度実施した内容を精選し、新類型へつなげる。</p>	<p>・未来手帳のさらなる活用をお願いしたい。</p> <p>・生徒たちが何に興味を示したか、多くの生徒が興味を持ったことを学習に取り入れて欲しい。</p>
総合的な探究の時間	<p>総合的な探究の時間の実践</p> <p>①探究活動を通して、在り方・生き方を踏まえ、課題発見・解決する資質・能力の育成。</p> <p>②総合探究類型について3年間を見据えた企画の立案と実施、また、その改善の推進。</p>	<p>①1年生…フィールドワーク等があまり実施されない規模なものとなった。</p> <p>2年生…昨年度より、探究の仕方において発表において上達が見られた。</p> <p>残念ながら、1、2年生とも発表がクラス発表までとなった。</p> <p>すべての学年において3年間を見据えた、実施計画を作成中である。</p> <p>来年度は、是非 学年発表 さらに校内発表までつなげたい。</p> <p>②令和7年度よりの新類型について、3年間の計画を立案中である。</p>	51.4	71.8	-	<p>3年間の実施マニュアルを作成し、学年発表、可能であれば校内発表までつなげる。</p>	<p>・体験的な活動をより多く取り入れたダイナミックな学習をお願いしたい。</p> <p>・生徒たちが何に興味を示したか、多くの生徒が興味を持ったことを学習に取り入れて欲しい。</p>
個に徹底した学習指導	<p>学力の把握と指導の方法や形態の工夫</p> <p>①ひょうご学力向上研究事業を活かし、各教科について、生徒に応じた指導方法等の実践。</p> <p>②習熟度別のクラス編成や授業を行い、教育効果を高める。</p> <p>③スタディーサポート、模試、入試結果について、適切な分析と進路指導方法の改善。</p>	<p>・数学・外国語において習熟度別または分割授業が展開されている。選択科目では少人数で、生徒の学習状況を踏まえた丁寧な指導につながっている。</p> <p>・定期考査前の勉強会を設定したり、週末の課題等を通して学習する習慣をつけさせた。また、早期補習を実施して基本的な内容から応用まで幅広く学習をさせることができた。</p>	48.6	74.4	59.0	<p>・日々の学習指導を徹底させて、本校としてふさわしい取り組みの検討が必要である。</p> <p>・習熟度別授業や分割授業を活用してさらに効果が出せるように工夫をする。</p> <p>・今後も教育課程編成の検討等を行う。</p>	<p>・一人ひとりの個性を見出し、共同で学びを深め広める学習の展開を進めて欲しい。</p> <p>・全生徒の個に応じた学習指導は難しいと思うが、引き続きの指導に期待したい。</p>
健康・安全教育	<p>生徒の実態に即した学校保健の立案と実施</p> <p>①定期健康診断の事後措置を行うことで、早期受診促進と、疾病予防。</p>	<p>・生徒保健委員会を定期的実施し、車椅子と担架の使用方法和教室の換気を行うことを徹底した。</p> <p>・定期検診後の受診が必要な生徒について、事後措置を促したが全員が受診できていない。</p> <p>・コロナウイルス感染症、インフルエンザ対策として、教室の換気、必要に応じた消毒、手洗いの励行など行った。</p> <p>・定期検診後の受診が必要な生徒についての早期受診の対策が必要。</p>	64.9	94.9	60.1	<p>・生徒が安全で健康な学校生活が送れるよう他部署と連携して職員の研修を充実させる。</p> <p>・検診後の事後措置により受診を促す。</p> <p>・引き続き、コロナワクチン感染症、インフルエンザ予防対策の徹底を図る。</p> <p>・保健委員会の活動を活発にし、生徒達の安全意識を高める。</p>	<p>・コロナ、インフルエンザと日々大変だと思う。</p> <p>・心の健康を願う。</p>

課題教育	人権教育	<p>人権についての意識の向上と基本的な理解</p> <p>①学校の教育活動の中で、他人を思いやる気持ちの育成</p> <p>②命を守る等の人権意識を高揚といじめのない学校づくりの推進。</p> <p>③人権教育講演会やLHRを通し、豊かな人間性や社会性の育成。</p>	<p>・今年度は、人権講演会（全学年対象）を開催し、「共に生きる社会」という演題で、LGBTを含めた内容で尼子勝義氏（西播磨人権教育研究協議会事務局長）に講演していただいた。</p> <p>・1年生は、『SHSを正しく使用していますか?』、2年生は、『コミュニケーションの取り方を見直そう』の単元で人権HRを実施した。3年生は、人権HRで、履歴書問題について学んだ。また、職員研修会では、弁護士協会より、竹内彰氏を招き、「LGBTについて考える」という演題で弁護士立場より講演をいただき、研修を深めた。</p> <p>・第51回赤穂市民促進協議会教育実践研究大会において、『人権尊重を要とする福祉と共生』の分科会で、『コミュニケーションの取り方を見直そう』というタイトルで発表をした。</p>	67.6	89.7	59.0	<p>・実際にトランスジェンダーの生徒を受け入れる場合を想定して、具体的に本校がしたいといかない項目や新たな人権課題について、全校・職員研修会を開き、職員の人権意識を広め、課題に取り組んでいきたい。</p> <p>・赤穂市での市民促進研究会での研究会でも小学校・中学校・地域とも取り組みを広げ、研究を深めていきたい。</p>	<p>・人権は今後ますます大切なものとなるため、ご指導をお願いしたい。</p> <p>・重要度は高いと思う。教員、生徒の別なく深く考え、時代に合った教育をお願いしたい。</p>
	情報教育	<p>情報モラルの育成と情報機器の適切な利用の推進</p> <p>①情報モラル（個人情報、知的財産、情報セキュリティ等）の知識理解。</p> <p>②情報について、正しく発信する等の処理能力の育成。</p> <p>③生徒会を中心にルールの策定と情報マナーの向上。</p>	<p>・BYODの考え方に従って昨年に引き続き78回生にも iPad を導入した。業者からの納入が5月末で、個々の生徒の校内使用の設定に時間がかかった。使用については、「赤校BYOD心得」にしたがって、大きなトラブルもなく活用できた。</p> <p>・各教科において授業にタブレット端末、iPadを活用した授業を展開しているが、校内ネットワーク環境が使用情報量の増加に追いつかず苦労している。</p> <p>・GoogleClassroom等クラウドの利用が、徐々にではあるが利用が増えている。</p> <p>・情報モラルについてLHRや情報モラル講演会を実施しネット社会において「被害者にも、加害者にもならない」よう理解を深めさせているが、SNS等への不用意な書き込みや自己の情報管理が不十分な事案が見受けられ、更なる情報モラルに関する教育をすすめていく必要がある。</p>	59.5	82.1	—	<p>・BYODの機器活用に向け、各教科と協力して研修会を行い、より有効な活用方法を考える。</p> <p>・BYODの機器の設定の設定に時間がかかったので、全教員対象の設定講習会等を計画する。</p> <p>・生徒の周りにはネットに関するトラブルが増加しているの</p> <p>で、これまで以上に教科情報やLHR、特別活動を通じてトラブルに巻き込まれない利用方法を生徒に考えさせていく。</p> <p>・昨年度より若干ネットワーク環境は改善されたが、多数のクラスで情報機器を使わせるには弱いので、教育委員会の支援のもとネットワーク環境や指導用機器の拡充をすすめていく。</p>	<p>・情報管理が求められているので、これまで以上のご指導をお願いしたい。</p> <p>・トラブルが非常に心配である。指導に注力して欲しい。</p>
	体験活動	<p>ボランティア活動や福祉体験の推進</p> <p>①赤穂特別支援学校との積極的な共同学習の推進。</p> <p>②校内外のボランティア活動、保育施設でのふれあい育児体験、地域行事の補助、高齢者福祉施設での交流等の活動の推進と、自己有用感の育成。</p>	<p>・赤穂特別支援学校との各種の交流事業が計画通り行え、お互いを理解する機会となりった。</p> <p>・駅周辺や通学路の清掃活動については、感染症予防に対し十分な対策を講じ、生徒会と有志を中心に実施した。</p> <p>・赤穂シテイマラソンや義士祭等、市のイベントに多数の生徒がボランティアとして参加した。また、義士祭の期間前後で、赤穂特別支援学校、定時制と合同で、赤穂駅前にイルミネーションを設置し、訪れる人に喜ばれた。</p> <p>・家庭科（児童館、保育所、高齢者施設に生徒の作成した絵本や手芸品をプレゼントし、喜んでいただけた。ふれあい活動ができなかったため、次年度はふれあい機会を作ってきたい。）</p>	70.3	82.1	60.5	<p>・活動前後の広報を工夫することにより周知し、ボランティアに関わる職員・生徒を増やす。</p> <p>・地域課題を探究的に解決する学習の重要性を認識し、授業に取り入れる工夫などの研究を進める。</p> <p>・赤穂市からのボランティアの要請には、可能な限り協力する。</p> <p>・地域課題を探究的に解決する学習の重要性を認識し、授業に取り入れる工夫などの研究を進める。ボランティア体験を行うことにより、生徒たちの意識が変わるため今後も続けていきたい。</p>	<p>・引き続きよろしくをお願いしたい。</p> <p>・継続的な活動をお願いしたい。</p>

各肯定率は、自己評価規準（よくできた→4 できた→3 あまりできなかった→2 できなかった→1）から「4」「3」の割合を表記した。